

外国語研究部 教科総論

寺尾 太地 山中 隆行 宮城 健太

1 外国語活動・外国語科における「学びをつなぐ」とは

外国語科・外国活動では、子供が目的や相手意識などを持ち、Message（子供の本当に伝えたいこと）に応じて、既習の語句や表現などを使い分け、言語活動を行っていく。教師は、単元構成の工夫や、振り返りの工夫を行うことで、手立てと教材をつなぎ、言語活動の充実を図る。これらを通して、子供が、英語でコミュニケーションを行いながら、互いの共通点や意外な点を発見し、他者との相互理解を深めていく姿を「学びをつなぐ姿」と捉えている。

2 外国語活動・外国語科の見方・考え方

外国語活動・外国語科の見方・考え方とは「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。外国語活動・外国語科は、この外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地（外国語活動）・基礎（外国語科）となる資質・能力を育成することを目指している。コミュニケーション能力は、既習事項を生かしながら新しい言葉や表現を獲得し、目的や場面、状況に合わせて言語活動を行うことで育っていく。外国語活動・外国語科は、子供が相手意識・目的意識をもって互いの考えや気持ちを伝え合いながらおこなう学習である。

3 外国語活動・外国語科における「知識・技能」，「思考力・表現力・判断力等」

外国語活動・外国語科における「知識・技能」とは、コミュニケーションにおいて言葉や表現を正しく使ったり理解したりできることを指す。また、「思考力・判断力・表現力」とは、目的や場面・状況に合わせて自分や相手の考えや気持ちを表現したり読み取ったりすることを指す。

4 授業づくりのポイント

(1) 単元構成の工夫

単元構成シートなどを用いて、単元の目標や評価、ゴールを踏まえて単元の最後から第1時にむけて授業を作っていく。その際、子供の興味・関心を踏まえてより必然性の高まるような単元のゴールを設定する。

(2) 言語活動の充実

自分の考えや本当の気持ちを伝え合えるよう、Small talkなどの言語活動の場を充実させる。

(3) 振り返りの工夫

単元の中で自分の成長がわかるよう、Can-doと連動して振り返りを蓄積していく。

第6学年外国語科学習授業デザインシート

授業者：寺尾太地

ALT：Nakagawa Tania Hitomi

1 育みたい資質・能力

本単元で育みたい資質・能力は、「自分の本当の気持ちや考えを伝えるために必要な英語表現を考え、判断し、活用する力」である。単元の内容が「将来世界で活躍する自分について」となっており、これまでに学んだ既習表現を使ってやり取りするものとなっている。単元の前半では十分にインプットを行い、徐々に伝え合うときに必要な表現や相手に対する感情の表し方などについて子供が教科書やデジタル教科書を使いながら協働的に学んでいくことでこの力を育んでいきたい。

また、今年度は「やり取りの際の英語量を増やす」ことを共同研究のテーマとしている。これは、機械的に話す言葉を増やすのではなく、自分の考えや気持ちをよりよく伝えるために表現を増やすということである。子供が自分の考えや本当の気持ちを英語で伝えあうことで、外国語の見方・考え方である「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」ができるよう育んでいきたい。

2 評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|---|--|---|
| 話すこと (やり取り) | <知識> Where do you live? What do you do now? などの表現について理解している。 <技能> Where do you live? What do you do now? などを用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に着けている。 | 20年後に仲間と再会する場において将来の自分の姿を伝え合うために、やっていたい職業や住みたい場所などについて伝え合っている。 | 20年後に仲間と再会する場において、将来の自分の姿を伝え合うために、やっていたい職業や住みたい場所などについて表現の仕方を改善したり、うまく伝わった経験をもとに表現の仕方を継続して行ったりしている。 |

3 本時について

| | |
|-------|---|
| 単元名 | Project1 世界で活躍する自分について話そう |
| 本時 | 世界で活躍する自分について話そう 4 / 7時 |
| 本時の目標 | 20年後に世界で活躍している自分について話しをするために、自分で設定した目標を達成する。 |
| 本時の評価 | 20年後に世界で活躍している自分について話しをするために、自分で設定した目標を達成できたか。 【話す（やり取り）／主体的に学習に取り組む態度／活動・振り返りシート】 |

(1) 導入

① 挨拶（How are you? など）

② Small Talk

会話をつなげるための言葉に注目し、Small Talk で活用する。

(2) 展開

① 20年後，世界で活躍する自分について会話する。（1回目）

② 仲間と相談したりデジタル教材を活用したりするなどしてやり取りがよりうまくいくように考える。

③ 困っていることやうまくいっていることを全体でシェアする。

④ 20年後，世界で活躍する自分について会話する。（2回目）

⑤ 仲間と相談したりデジタル教材を活用したりするなどしてやり取りがよりうまくいくように考える。

⑥ 20年後，世界で活躍する自分について会話する。（3回目）

(3) 終末

振り返りシートに本時の振り返りを書く。

4 授業者より

1学期，子供は授業において「話すこと（発表）」の領域を中心に学んだ。その際，クロムブックのスライドを活用してスライドを作ることで，相手により伝わりやすく伝えようとする姿が見られた。発表においても，相手に自分の気持ちが伝わるよう相手の表情を見ながらジェスチャーを交えて話をする姿が見られた。一方では，原稿を見ながらでないと発表ができない，自信がないといった子供や極端に伝える情報が少ない子供も見られた。

そこで，1学期の後半では「アドリブを交えて話そう」ということを全単元の共通事項として子供と確認した。具体的には既習表現を用いて話すことをアドリブと定義し，会話の中で新出表現に既習表現を盛り込んでいくことで自分の気持ちがより伝わることを実感させた。このことで最後の単元では既習表現を自分で考え盛り込んでいく子供が増えた。

また、単元最後の言語活動までのめあてを、子供が一人一人考え自分で設定するようにした。このめあては、毎時間変更することができるようにしている。このことで、単元の学びを現在の状況と照らし合わせ、自己調整しながら進めていけるようにした。その結果、子供がそれぞれに自分の学びを進める場面において単元の最初は個での学びが中心で進んでいくが、単元が進むにつれて協働的な学びが中心となる様子が見られるようになった。

2学期は、1学期に経験したアドリブを自分の発表に盛り込んで話すことから、アドリブを交えてその場でやり取りをすることへ発展させていきたい。特に、本単元は既習事項のみでやり取りする設定であるため、これまでに学んだことをどのように生かしていくかに重点が置かれている。そのため、感情を伝える相槌や問い返しを本格的に導入することが重要となる単元ともなっている。今後の英語を使った豊かなコミュニケーションの第一歩として、子供が自分の言葉でコミュニケーションすることを大切にできる場を整えていきたい。

5 単元計画

| 時 | 学習活動 |
|---------|---|
| 1 | 自分が20年後にやっていきたい職業や住んでいきたい国を考える。 |
| 2 | 自分が20年後にやっていきたい職業についてやり取りする。 |
| 3 | 自分が20年後にすんでいたい場所についてやり取りする。 |
| 4 本時 | 20年後に世界で活躍している自分について話しをするために、自分で設定した目標を達成する。 |
| 5 | 20年後に世界で活躍している自分について話しをするために、自分で設定した目標を達成する。 |
| 6 | 20年ぶりに再会した仲間と住んでいる場所や職業についてやり取りする。 |
| 7 | 20年ぶりに道でばったり再会したALTと現在の状況を伝え合うためにやり取りをする。(パフォーマンステスト) |